

# ゆっくり焦らず、 自然を残しながら、 質の高い変化を 遂げてほしい。

「男はつらいよ」シリーズで  
国民的人気の女優、  
倍賞千恵子さん。  
その夫君で  
幅広い分野で活躍する  
作曲家の小六禮次郎さん。  
お二人は在住27年目という、  
保土ヶ谷区民です。  
保土ヶ谷の良さ、  
区内の変化やこれからについて、  
そしてちよっぴり  
お仕事のことを伺いました。



**畑尻 明**

(保土ヶ谷区制90周年記念事業実行委員会会長)

**菅井 忠彦**

(保土ヶ谷区長)

**倍賞 千恵子**

(女優・歌手)

**小六 禮次郎**

(作曲家)

## 引越した頃は まるで「森の中」でした

**菅井** お二人は保土ヶ谷在住がずいぶん長いとお聞きしました。そもそもどううしてこちらに引越してこられたのですか。

**倍賞** 私はもともと東京の巣鴨の生まれで、ずっと東京に住んでいたのですが、今住んでいるマンションの設計を松竹歌劇団（SKD）時代の友だちの旦那さまがおやりになるということで見に行つたんです。その時、主人の『よし、ここに決めよう』という一言で保土ヶ谷区民になることが決まりました。

**小六** 私は岡山出身なのですが、横浜には昔から縁があるんですよ。大学に入ったとき、屏風ヶ浦（磯子区）に姉と住んでいましたし、大倉山（港北区）の方にも住んだことがあります。保土ヶ谷区はこれが初めてでした。

**倍賞** この人、引越し魔なんです。20年間で20回以上引越してきて。二人で東京のどこかへ行くと『あ、この近所に住んでた』『懐かしいな』

と（笑）。

**小六** 神奈川県内だけでも10回くらい引越してますね。でも、保土ヶ谷に越してきてからはずっと今のところで。

**菅井** 引越してこられた当時、保土ヶ谷はどんな印象でしたか。

**倍賞** 当時はほんと、周りにちっちゃな山がたくさんあるようなところでした。すごく静かで『森の中みたいでいいわね』と二人で話していました。

## お散歩コースは 今でも畑の中

**菅井** お二人はやはりお仕事で東京へいらつしやる人が多いのですか。

**小六** そうですね。第三京浜も近いし、新横浜へも便利だし。羽田へも楽に行けるようになりましたね。

**菅井** ところで、地元で過ごされるときは、どんなことをなさってますか。

**倍賞** 近所を散歩しますね。まだまだ畑が残っていて、蕎麦畑もあつて、そこで打つた蕎麦をいただいたこともあります。

**畑尻** 確かに、山の上の方には今も畑がありますからね。

**小六** 以前は妻と一緒によくゴルフをやつたのですが、体を痛めてしまい、今はもっぱら歩いています。近所でも畑を耕している方もいらつしやつて、とてもいい田園風景です。まあ、年を取つたらアップダウンのきつさがこたえるかもしれません。

**倍賞** エスカレーターを付けてほしいつて思うときもありますね（笑）。

**畑尻** 倍賞さんはゴルフがお好きなん

ですね。「さくら」さんがゴルフ好きというのも意外な気がしますが（笑）。

**倍賞** 寅さんと一緒だった御前さま（笠智衆さん）もゴルフをやるものですから。あの方は足腰のためにつてスニーカー履いてスタジオ入りしたりしていました。前田吟さんもすごくお上手ですよ。

## 『寅さん』は学校のような 映画でした（倍賞） 「費用対効果」で父を 説得して音楽家に（小六）

**菅井** お仕事の話が出ましたので、お二人の今に至るキャリアをお聞かせください。

**倍賞** 私はSKDで歌って踊っているとき、松竹から1本だけ映画に出てくれと言われて、気が付いたら映画の世界に入つていたという感じでした。最初の年が9本、次の年には13本撮りました。

**小六** あの頃は週替わりで映画館の上映作品が替わっていききましたね。倍賞は今まで170本くらい撮つてますから。



**倍賞** 50数年で170本はやっぱり多い方でしょよね。そのうち3分の1近くは『寅さん』。人間関係や社会などを学んだ、学校みたいな映画でした。一時期ともつらくて、やめたいと思つてたときがありました。プライベートでも『おい、さくら!』なんて呼ばれて。それを渥美清さんに言つたら『役者が役名で呼ばれるつてのは褒め言葉だよ』と。それでハツと思ひ、仕切り直ししてまた走り出したんです。

**畑尻** 私も倍賞さんの大ファンです。柴又へはもう3回くらい行きましたよ。あ、ここで撮影したんだというお店にも入りましたし。

**倍賞** 草団子の美味しいお店ですね。

**菅井** ところで、小六さんは作曲家として本当にさまざまな分野でご活躍ですね。

**小六** 子どもの頃、兄が買ってきたドヴォルザークの『新世界』というレコードを気に入って、毎日聴いていたんです。中学でブラスバンド部に入り、高校1年のときにはカラヤンとベルリン・フィルハーモニー管弦楽団が岡山

に来て、お小遣い貯めて聴きに行ったんです。音楽家になる、と決めたのはその頃です。父親を説得するのに、『東京藝大に行きたいのだが、国立だから授業料は私立に比べてこれだけ安い』『藝大に行った高校の先輩は歌詞曲でヒット曲を連発している。これだけ稼げる』という理由を並べたんです。会社をやっていた父親に、今で言う「費用対効果」を説得材料にしたわけですね(笑)。

## 近所の小さなスーパーを応援しています

**菅井** 小六さんがお仕事で一緒にしたことのある神奈川フィルハーモニー管弦楽団の練習場も、保土ヶ谷区にあるのですが。

**小六** 保土ヶ谷アートホールですね。妻のリハーサルでも時々使ってますよ。あのあたりは緑が濃くていいですね。

**倍賞** 新緑の季節もいいですし、秋もイチョウが色づいていい雰囲気です。

**畑尻** 散歩気分で地元でお買い物などされるのですか。

**倍賞** 近所に小さなスーパーがあるんです。「よろず屋さん」的なお店で、野菜をよく買いに行っているのですが、裏の方に大きなスーパーがきちやっつて。頑張れ頑張れって、一生懸命応援しています。

**小六** そのご夫婦とは、一緒に旅行にも行つたんですよ。なんせ、引越してきた頃からのお付き合いなので。

**倍賞** まだ頑張っているお店もたくさんありますよね。



## 地元でのコンサートは親戚の前で歌う感じ

**菅井** 来年(2018年)3月に区制90周年記念としてコンサートを開催しますが、意気込みを聞かせてください。

**倍賞** 地元の保土ヶ谷で歌うのは初めてなんです。今まで頑張つて生きてきた自分が、この年齢で歌える歌があるというのは幸せだなと思います。



ずっと歌い続けてきた歌というか…。地元でのコンサートはすごく楽しみな反面、知り合いも多く来そうだからドキドキしています。

**小六** 横浜の県民ホールでは何度もやっているのですが、地元だとコンサートへの接し方も違うんじゃないかと思つてまして。何だか、親戚の前で歌う感じですね（笑）。

**倍賞** 私のコンサートによく来てくださる男性ファンがいらつしやるのですが、その方々も保土ヶ谷在住で。地方のコンサートには、保土ヶ谷の果物を持ってきて差し入れてくださるんですよ。



## 変化はゆつくりでいい 質の高い変化であれば

**菅井** これから100周年に向けて、どのようなことを保土ヶ谷に期待されますか。

**倍賞** 27年間ですごく変わりましたが、これからも変わっていくと思ひますが、早く変わればいいというものではないですよ。そんなに急がなくてもいいから、保土ヶ谷のことをじっくり考えながら進化していくのがいいかなと思います。

**小六** 住民が守ってきた山を業者が買い取つて開発した地区があるんですよ。木を全部切つてしまつて。今から考えると3分の1でも緑が残つていればいい街になつたのと思ひます。開発するのでも、質のいい開発をよく考へてやつていけば、区のクオリティも上がるのではないのでしょうか。

**倍賞** 来たばかりのときは、よくタヌキを見たんです。うちのキッチンからひなたぼっこしているのを見ました。今は見なくなつちやいましたね。でもまだ鳥は多いですよ。カワセミも

いますし。

**畑尻** 年月を経るごとにまちは変化していきませんが、私にとつて保土ヶ谷はいつまでも住み続けたいまちです。

**小六** 文化的にも質の高い変化をするためには、ぜひ行政にも頑張つてもらいたいですね。

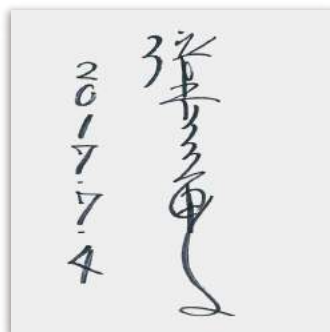
**菅井** 大変貴重なご意見、どうもありがとうございます。3月のコンサートを楽しみにしています。また、今後の活躍も期待しております。



## Profile

### 倍賞 千恵子 (女優・歌手)

1941年6月29日東京都生まれ。松竹音楽舞踊学校を首席で卒業後、松竹歌劇団入団。1961年『班女』で女優デビュー。1962年『下町の太陽』で歌手デビュー。1969年から『男はつらいよ』シリーズに「さくら」役で出演。2005年紫綬褒章、2013年旭日小綬賞を受賞。小六禮次郎氏とコンサート活動も行っている。



### 小六 禮次郎 (作曲家)

1949年12月13日岡山県生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒。作曲、編曲分野の第一線で活動。映画、テレビ、ラジオからCM、ミュージカル、ゲーム音楽など幅広い分野で多くの作品に携わる。倍賞千恵子氏とのコンサートではピアノの演奏もする。

